

平成30年度(平成29年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(公表)

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	平成29年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
① 収集・保存	① 作品の購入及び寄贈作品の受入	作品の購入点数	1点	42点	【購入】 ○シュルレアリスムの作家の挿画集(版画)を基金以外の予算で1件(42点)購入した。同作家については既収集作品が1点しかなかったため、比較展示等による活用も期待でき、コレクションの充実が図られた。(レオノール・フィニー 挿画集「サラゴサ手稿」 第1期コレクション展に展示) ●基金を活用した上記作家の油彩作品の購入計画も併せて進めていたが、直前に個人所有者より販売不可との連絡があり、基金の活用はできなかった。また、近年美術作品の価格が高騰していることなどから、購入可能な作品は多いとはいえず、厳しい状況であり、今後とも積極的な情報収集が必要である。 【寄贈】 ○寄贈の申し出が6件あり、調査を行った。いずれも収蔵作家の作品で既に十分な数があること、作品の質や状態等の問題から受け入れは不可と判断した。 ●県外からの情報提供もあり、調査のための予算やスケジュール確保など計画的な対策が必要である。	A	A	□ 作品の購入の年度間目標を点数としているが、例えば版画と油絵では作品的価値が異なるのではないかと考える。量だけではなく質も評価の対象とできると良いのではないかと考える。 □ 環境調査、燻蒸については、目的を達成しており「A」評価でよいのではないかと。	A
		寄贈作品の受入点数	1点	0点					
	② 作品の修復等	作品の修復又は額装	1点	2点	○ 収蔵作品の中から修復・額装が必要な作品を選定し、状態や展示頻度等を踏まえ優先順位を決めた。日本画作品1点の修復、水彩画作品1点の額装を行った。他にも、修復、額装が必要な作品があるため、リストを適宜更新しながら、計画的に進めたい。	A	A		
③ 保存環境の整備	外部委託による環境調査	2回	2回	○ 9～10月及び2～3月に、生物被害対策のため業者による粘着トラップ190箇所、フェロモントラップ108箇所、空中浮遊菌測定37箇所の調査を実施した。 ● 1回目の調査で1階アトリエにてカツオブシムシの捕獲があったため、当該場所の清掃を行うとともに、室内に保管している材料等の整理や日常の清掃を徹底した。2回目の調査では捕獲はなかったが、ムシの活動が少ない時期のため、今後も注視していく必要がある。 ○ 2回目の調査とも、フェロモントラップによるジバンムシの捕獲や、空中浮遊菌(真菌)の測定に異常はなかった。今後とも目視による日常点検や清掃の徹底を継続していきたい。 ○ 作品燻蒸については、新収蔵作品が小品だったため、館外展示で使用した作品も含めて1回で対象作品の全てを燻蒸することが出来た。	B	A			
	燻蒸(新収蔵及び館外使用後の作品に限る)	2回	1回						
② 調査研究	① 研究紀要の発行等	研究紀要の発行	1回	0回	● 職員が分担して、郷土作家等の研究を進めているが、この中で平成29年度には延岡出身の画家、渡辺謙二郎とその弟で彫刻家の渡辺小五郎の調査研究をまとめることができ、第1報を平成30年度の上半期に発行の予定である。	C	B	□ 予算措置が必要となるが、調査研究成果の評価指標として、研究紀要に加えて図録の発行も必要ではないかと。	B
	② 郷土作家等の情報収集及び作品調査	情報収集及び作品調査	2件	5件	○ 6人の郷土作家(太佐豊春、山内多門、吉田敏、山本泰業、渡辺謙二郎・小五郎)についての情報収集や作品調査を行った。 ○ 新たな情報や関連資料をもとに、今後も引き続き調査研究を行うが、作家のご遺族が県外に移られている場合もあり、作品調査をする時間の確保が難しい面もあるが計画的に進めたい。	A			
	③ 作品解説等の執筆	作家・作品調書の作成	10件	14件	○ 職員の各担当分野を中心に、14件の作品について、当該作品や作家についての詳細な調査を行い、調書にまとめるとともに作品解説等を執筆した。 ○ 上記の成果をもとに、コレクション展のテーマ設定や解説資料、ギャラリートークの内容等を充実できた。また、広報紙等における作品紹介にも活用した。	A			
	④ 講義・鑑賞会等の実施	講義・鑑賞会等の実施	20回	42回	○ 講演会や講義を7回、特別展のギャラリートーク等を22回、コレクション展のギャラリートークを13回企画・実施し、展示内容に関して県民の理解を深めて頂くとともに、作品等に関する調査・研究成果を分かりやすく公表できた。	A			

平成30年度(平成29年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(公表)

A:目標を大きく上回った(120%以上) B:目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C:目標を下回った(60%以上90%未満) D:目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	平成29年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
③ 展示	① コレクション展の開催	コレクション展の開催	4回	4回	○様々なテーマで年間4回コレクション展を開催できた。年間鑑賞者は、過去5年間では2番目に多く、前年度より約5,000人多かった。今後も、他の事業とのタイアップや情報提供の充実を図り、興味関心をもってもらう工夫を継続したい。また、更なる鑑賞者増対策として特別展鑑賞者の案内フラッグ等での誘導も引き続き強化したい。 ●第1期、第3期において、展示替えごとにマスコミ向けのオープニングギャラリートークを試行実施したが、展示期間中でもマスコミ各社からの希望があれば随時対応しているため、トークへの参加はごくわずかであった。長期間に渡る展示期間中に定期的にマスコミに取り上げてもらう更なる工夫が必要である。	B	□展覧会の評価については鑑賞者数で判断されがちである。アンケートを評価に用いて展覧会の内容・質についても評価してはどうか。	B	
		年間鑑賞者	34,000人	34,201人					
	② 特別展の開催	特別展の開催	3回	4回	○「徳川歴代将軍名宝展」(入場者:44,469人)、「夢の美術館」(入場者:28,258人)、「にゃんとも猫だらけ」(入場者:6,439人)、「川崎毅と矢野静明」(入場者:2,164人)の4回の特別展を開催し、特に「徳川歴代将軍名宝展」は、開館以来の鑑賞者数ベスト10に入る鑑賞者で賑わった。 ○重要文化財を展示するにあたり、当館の老朽化した展示用備品等の課題が判明したため、展示ケースの設備改修を適切に行った。今後の展覧会計画等を見据え、適切な展示環境の改善と維持に努めていく必要がある。 ○職員の調査・研究に基づいた自主企画展として、県外で活躍する郷土作家2名を紹介する「川崎毅と矢野静明」を開催し、県民が鑑賞する機会が少ない作家や作品の魅力を伝えることができた。今後も職員の調査・研究を公表する機会として、自主企画展の開催に向けて計画的に準備作業を進める。	A			
		年間鑑賞者(全特別展合算)	50,000人	81,330人					
自主企画展等(特別展示を含む)の開催	特別展のうち1回	1回							
③ 館外展示の実施	館外展示の開催	2回	2回	○「旅する美術館・みんなでアート(タビビ)」を椎葉村(作品25点)、川南町(作品26点)で実施した。地域や学校の協力も得ることが出来た。 ●鑑賞者を増やすため、会期の設定、広報の工夫、開催市町村への早めの協力依頼などの働きかけを更に行う必要がある。	B				
④ 教育普及	① 成人向け講座等の実施	成人向け講座等の参加者	900人	4,002人	○ワークショップは内容を比較的短時間で子どもから大人まで気軽に体験でき、かつ楽しめる内容としたことや特別展と会期が重なったこともあり参加者が増えた(参加者:3,183人) ○アンケート結果から分析すると参加者からの満足度が高い実技講座を実施することができている。(受講者:90人) ○本館主催の講演会:徳川名宝展(参加者:2回で335人)、夢の美術館展(参加者:3回で183人)、猫だらけ展(参加者:1回で79人)、ワクワクアート(参加者:1回で72人)、県美展(参加者:1回で60人)の参加者があった。(計729人)	A	A		
								② 子ども向け教室等の実施	子ども向け教室等の参加者
	③ 美術図書室・映像施設等の充実	図書・映像等施設の利用者	17,000人	20,372人	○図書カウンターでは、スピード感のある、確実な業務を進めることができた。県内外のイベント情報を得るための利用者も多かった。(図書室利用者5,824人)	A			
	④ 館外での教室・講座等の実施	館外教室・講座等の参加者	500人	928人	○移動鑑賞教室では、本物の作品の持つ迫力を児童・生徒に伝えられた。郷土の作家を県民に紹介する絶好の場となっている。(小学校6校、中学校2校で実施) ●限られた時間内で美術に興味関心を持たせるための作品選択や紹介方法について更に工夫する必要がある。	A			

平成30年度(平成29年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(公表)

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	平成29年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
⑤ 広報・発信	① 広報誌の発行	広報誌の発行	3回	3回	○6月、10月、3月に計画的に発行した。招待券プレゼントで読者の反響を得たり、読み物の部分と紹介記事のバランスをとったりしながら、誌面構成を工夫することができた。県民の方が読みたくなる、知りたくなる広報誌を更に目指していきたい。	B	A		A
	② ホームページ等の充実	ホームページのアクセス数	180,000回	224,039回	○県内外の人にとって美術館の情報を得る重要なツールとしての機能を果たしており、昨年は特別展等に関心が集まり、アクセス数がこの5年で最も多かった。アクセス数を更に増やすために、必要な情報のタイムリーな更新に努めたい。	A			
		SNSによる情報発信	100回	112回	○フェイスブック(FB)により、旬な話題や情報をこまめに提供できた。				
	③ 関係機関への情報提供	プレスリリース	25回	31回	【プレスリリース】 ○各事業ごとに報道機関への情報提供をタイムリーに行ったため、テレビやラジオで取り上げていただく機会が増えるなど、事業の県民への周知を図ることができた。	A			
		情報誌等への情報提供	120回	155回	●事業によっては、実施日直前のプレスリリースになったものもあるため、余裕を持って計画的な情報提供に努めたい。 【情報誌等】 ○情報誌や新聞等への定期的な情報提供を確実に行うことができた。購読者数などを検証しながら効果的な情報発信に今後も努めたい。				
④ 広報資料の提供	県ホームページによる情報発信	60回	69回	【県ホームページ】 ○どの事業も計画的に県ホームページに掲載を行い、広く周知することができた。	A				
⑥ 連携・参画	① 地域における美術制作事業の実施	地域での美術制作事業の参加者	1回	1回	○作家が、積極的に地域の人々と触れ合う機会を設けたことや、開催市や地域住民などの協力により、事業が円滑に進み、作品が親しまれるための素地が作られた。今後もチラシ、ポスター等を含めた広報や地域との連携のための手立てを確保することが必要である。	B	B		B
	② 他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携	他館・施設との連携による取組	2件	2件	【連携】 ○南九州アートライン、4館合同ツアー、6館合同カレンダー作成などの連携活動ができた。様々な活動に関して連携を図り更なる広報や周知が必要である。	A			
		学校向け美術教材の貸出	30件	50件	【美術教材】 ○本館と拠点校をお願いしている学校の取組で利用方法について定着が図られ、昨年度に比べ貸し出し数が増加した。				
		美術館サポーターの活動	延べ300人	延べ490人	【サポーター】 ○全体会議等で、年間の計画を各自周知しながら進めたことで、連携のとれた活動になった。今後は自主的な活動を目指して、サポーターみずから企画運営に関わる機会を設定するなどの工夫に努めたい。(登録者数36人)				
	③ 創作・発表の場の提供	インターンシップ等の受入れ	5件	10件	【インターンシップ】 ○中学校、高等学校、大学生と、異なる学校種から幅広く職業体験を受入れることができた。受入れ時期や人数によって、体験内容や職員の業務シフトを変更せざるを得なくなった部分もあり事前により細かな検討が必要である。	B			
アトリエ利用件数		300人	384人	【アトリエ利用】 ○各アトリエが定員を超過しないように調整しながら、昨年度を上回る利用に努めた。					
④ 宮崎県美術展の開催	県民ギャラリー稼働日数	200日	202日	【県民ギャラリー】 ○43の団体、個人による、幅広い分野での発表の場を提供し、38,000人以上の方が鑑賞された。 ●年度間目標に実績が近づくように今後も調整に努めたい。	B				
	応募点数	1,100点	1,151点	○春の公募展として、県民に親しまれる展覧会を実施することができた。 ○昨年度に比べてわずかではあるが応募点数が増え(前年度比7点増)ている。					
	鑑賞者	4,500人	4,223人	●絵画部門及び映像部門の出品者が減少している。鑑賞者数の伸び悩みも含めて、興味関心を得るための手立てを講じる必要がある。 ●県人口は減少傾向にあり、美術愛好者の増加が見込まれない中で公募展によってどう本県の美術の振興を図るのかなど、本県における公募展の在り方を本県の企業が主催する公募展との関連も踏まえながら検討する時期に来ている。	B				

平成30年度(平成29年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(公表)

A:目標を大きく上回った(120%以上) B:目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C:目標を下回った(60%以上90%未満) D:目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	平成29年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見(概要)	総合評価
⑦ 人材育成	①職員の人材育成等	県外研修・視察への派遣割合	50%	81.25%	○対象職員16名のうち、13名が参加できた。展覧会や作品収集、文化財保護、鑑賞教育に係る研修で得た知識・技能は、様々な業務の中で活用できた。	A	A		A
	②博物館実習の受入	実習希望者の受入割合	100%	100%	○8月9日から同19日までの日程で博物館実習の受入れを行い、実習希望者5名全員の受入れを行った。	B			
⑧ 管理・運営	①施設・設備の適切な管理	防災研修及び避難訓練の実施	100%	100%	○【6月】消防署員立ち会いによる自衛消防訓練を実施(通報、避難誘導、消火、AEDによる救命訓練)、【12月】消防計画に基づき防火シャッター等を作動させた現実感のある避難訓練を実施	B	B		B
		検査等の指摘事項への対応	100%	100%	○予算の範囲内で計画的に修繕等を行っている。 ●施設・設備の老朽化への対策は喫緊の課題であるが、多額の経費を伴うことから、今後も予算確保に努める必要がある。	B			
	②施設の積極的な活用	施設見学者の受入れ	8,000人	6,819人	○学校団体、一般団体ともに積極的な受入れを行い、丁寧に対応を行った。 ○アートホールについては、ユニークベニューによる利用も含めて、幅広い内容で実施、活用ができた。ホームページで活用方法を周知した。	B			
		アートホールの活用	900人	1,258人					